

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎主日礼拝を大切に守ろう。
- ◎他教会の働きを知ろう。
- ◎教会ホームページの充実と活用。
- ◎地域との交流促進。

聖語 御言葉を宣べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい。(Ⅱテモテ 4:2)

垂穂は色付き 利鎌を待てり

～いつやるか？ 今でしょう！～

あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月もある』と言っているではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている。

(ヨハネ 4:35)

司祭 ミカエル 小南 晃

10月を迎えて、田圃の稲も穂をつけ、刈り入れを待つばかりです。冒頭の聖句は、まさに「刈り入れ」を促すイエスの御言葉です。

しかし、この言葉が語られたのが、刈り入れの季節であったかどうかはわかりません。何故なら、「あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月もある』と言っているではないか」とあるからです。もしこの言葉通りに受け取れば、今から4か月前とは6月、即ち、丁度田植えの時期ということになります。

しかし、この『刈り入れまでまだ四か月もある』と言う言葉は恐らく当時の諺、格言でしょう。その言わんとしている意味は「種を蒔いたばかりで収穫を求めるとは無理というもの」、即ち「今始めたばかりで結果を求めるとは早すぎる」という、性急に結果を求めるとを戒める言葉です。「焦ってはいけません」、「長い目で見なさい」と言った知恵のある格言です。

サマリア宣教

しかしイエスは、「色づいて刈り入れを待っている」とその諺とは全く逆のことを告げています。

まず少しこの話の背景を申しますと、イエスと弟子たちがサマリアの地を旅していた。そのサマリアの人々とユダヤ人は仲が悪く、本来ならユダヤ人であるイエスに反感を抱く筈です。ところがイエスがサマリアの一人の女と話をしたところ、意外にもその女は素直にイエスのことを救い主と信じ、直ちにそれをサマリアの人々に知らせた。聞いた人々もイエスのもとに続々と集まって来た。その様子を見ながら冒頭の聖句を語ったと言うものです。

これは福音宣教に関して語っているもので、弟子たちにしてみれば、ただでさえサマリアの人々は自分たちに敵対的なのに、彼らに福音を告げ知らせたところで結果が出るのはまだまだ先のこと、即ち「刈り入れまで4か月ある」ということになるでしょう。しかしイエスは、そうではない、もう彼らには福音を受け入れる準備が出来ている、だから今こそ、救いに導く時だと語っているということです。

いつやるか？ 今でしょう！

先ほど、本来なら『刈り入れまでまだ四か月もある』と言う言葉

は性急に結果を求めることを戒める知恵ある格言と申しました。しかし同じ格言を、人は時として怠け心からか、或いは危機意識の欠如から「まだまだ手を付けなくても大丈夫」と言うための逃げ道として用いてしまうこともあるのです。

そしてイエスの「目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている」は、そうしたぼんやりと手をこまねいている状況に「いつやるか？今でしょう！」とはっぱをかけていると言えます。

設立者記念タブレット

当教会創立時の宣教は、今から115年前、1900年に楠町講義所として独立後、10年で教会を建築し、その数年後には新伝道拠点「兵庫講義所」を設立。そして当教会創立から20年後には信徒数約200名の大教会となるという、驚くべき発展を遂げています。

神戸昇天教会チャンセルには教会設立者の覚前政蔵長老を記念してのタブレットが掲げられています。そこに記された御言葉は「目をあげて畑を見よ、はや黄みて収穫時になれり」です。

今、私たちも福音宣教において、既に畑が色づいていることに気付くことのできる目と、直ちに刈り入れに迎う勇気と行動力が与えられますように祈り求めたいと思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)